



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／梅垣和彦
- 副会長／小口隆・笠原新太郎
- 幹事／瀬戸雅三
- R 情報(会報)委員長／江黒博文

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-1 ・ Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939
URL: okayarc.org ・ Email: okayarc@bz04.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 太田屋メモリー

第 3017 回例会 2023 年（令和 5 年）12 月 19 日(火)

点 鐘：梅垣和彦 S A A：太田博久
斉 唱：我等の生業
ラッキーNo：NO. 22 薩摩 建
結 婚 祝：尾関秀雄・濱 毅・江黒寛文・小口智之

会長挨拶

こんにちは。本日のお客様をご紹介します。市立岡谷図書館館長 小坂英之様です。後ほど、卓話をしていただきます。宜しくお願い致します。

先週のチャリティー親睦忘年会には、ご家族と共に多くの皆さんにご参加いただきありがとうございました。矢島雄一親睦委員長をはじめ親睦委員会の皆さんには、楽しい企画、運営と誠にありがとうございました。早出岡谷市長様にも最後まで参加いただき、お陰様でご家族に皆さんにも楽しんでいただき、素晴らしい会になりました。ありがとうございました。

今年もあと残すこと 12 日となりました。岡谷ロータリークラブ 64 期も半年を過ぎようとしています。会員の皆様のご協力のもと、目の前の行事を一つ一つこなして行き、何とかここまでたどり着いたという感じです。他クラブとの交流を深めていく中、特に印象的だったのが 10 月 15 日に行われた富士見 RC 主催のパノラマリゾートへの山野草植栽事業でした。当日は、雨の中とても寒かったですが、会員数が少ないクラブが、100 人以上の参加者を集め、一同で山野草を植栽することのスケールの大きさは地域に根付いた事業でとても印象に残っています。

今期も半年残っていますが、皆様のご協力を頂きながら引き続き頑張っていきますので、宜しくお願い致します。

来る新しい年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますようご祈念申し上げ、簡単ではありますが会長挨拶と致します。

* 米山奨学生グエンゴックフエンさん
奨学金贈呈



会長報告

- ・第35回RYLA実行委員長に、林裕彦さんを推薦し、ご快諾いただきましたのでご報告いたします。

*林裕彦RYLA実行委員長より挨拶



幹事報告

- ・次週12月26日は、年間計画による指定休会日です。
- ・次回は新年1月9日、新年夜間例会です。メモリーにて18時半からです。
- ・1月4日に後期会費の振替えがあります。よろしくお願いいたします。



卓話「図書館のあるべき姿」

市立岡谷図書館館長
小坂英之 様



図書館のあるべき姿

岡谷ロータリークラブ書棚寄贈式



米国ロータリークラブ例会



笠原書店の「書影」

令和5年12月19日

岡谷ロータリークラブ12月例会

《 キーワード 》

〇 はじめに

1 今どきの図書館

～ 世界、日本、長野県、そして ～

2 読書と図書館

～ 生きる力を身につけ人生を豊かにする ～

喜びや悲しみの感情や感性を磨き、思いやりの心を育て、豊かな人間関係のコミュニケーション能力の礎を築く。また、創造力や思考力、表現力を高め心豊かに生きるための力を養う。

3 図書館のマネジメント

～ 図書館の消滅、指定管理者、民間運営 ～

〇 おわりに

～第4次岡谷市子ども読書活動推進計画の施策～

§ 施策1 家庭における子どもの読書活動の推進

《具体的な事業と取り組み》

① 家庭での読書環境を整える取り組み

乳幼児期から幼少期を中心に、モデル的な家庭環境のイメージを、マンガ等を交えたチラシを作成し配布します。



(マンガによるPR)

② 第3日曜日の「家庭読書の日」に家庭での読書を推進する取り組み

保育園や学校等を通じてチラシを配布するとともに、広報おやかにより全市民に周知します。具体的には、家庭読書の日の前日の図書貸出し冊数を増やすなど、日曜日の家庭での読書習慣の定着を図ります。

③ 出産前の親が読書と子育てについて理解を深める取り組み

胎児期には、出産を控えた保護者を対象とした「パパママ教室」などの機会に、電子図書による育児書の貸出しや乳幼児が本に親しむ環境づくりを整える事業を検討します。電子図書館は貸出しや返却の手間がなく、家庭で手軽に育児に関する情報を得られることから出産前の利用を推奨します。

④ 親子の愛情を育む中で、読書への興味や感心を抱かせる取り組み

「ファーストブック事業」及び「ファーストチョイスブック事業」を継続して実施し、配布方法の見直しにより配布率の向上に努めます。



(ファーストブック事業)

⑤ 「こどものくに」での本に親しむ取り組み

これまでの乳幼児向けブックリストに保護者向けの図書を追加するとともに、新たに出版社が新刊本を紹介し毎月発行される「子どもの本」を配置し、図書館に新たに収蔵した子ども向け図書の紹介を定期的に行います。また、子育て中の保護者が手軽に本を読み情報を得られるよう電子図書の利用をPRします。



(子育て支援館こどものくに)

《 目標指標 》 「岡谷図書館の人口1人あたりの絵本・児童書の貸出冊数」

現状値 2022 (R4) 年度	目標値 2028 (R10) 年度
2.6冊/人	3.0冊/人

＜参考＞ 令和4年4月1日現在の人口 46,647人

§ 施策2 保育園等における子どもの読書活動の推進

《具体的な事業と取り組み》

① 親子で本に親しむ機会を充実する取り組み

保育園・幼稚園の親子文庫事業では、子どもとともに保護者も一緒に本を楽しむため、貸出し希望の多い新刊本などを配布し、園と保護者の協働を支援します。



(保育園親子文庫)

② 就園前の親子が本に親しむ取り組み

未就園児親子交流では、未就園児とその保護者が市立保育園に集まり、保育園での生活を体験します。その中で保育士が読み聞かせなどを行い、家庭から園への読書活動のステップアップを図ります。

③ 保育園児等が図書館を訪問体験する取り組み

近隣の保育園等の園児が、遠足等の行事に合わせて図書館を訪問し館内を見学します。その後の親子での来館と絵本等の貸し出しにつなげます。

《 目標指標 》 「親子文庫の貸出冊数」

保育園・幼稚園の親子文庫貸し出し冊数

現状値 2022 (R4) 年度	目標値 2028 (R10) 年度
37,336冊	37,500冊

＜参考＞ 令和5年5月1日現在園児数 1,210人(対前年度比△46人)

§ 施策3 学校における子どもの読書活動の推進

《具体的な事業と取り組み》

① 朝読書をより充実させる取り組み

小中学校において朝読書のさらなる充実を図り、生活リズムの中へ読書習慣の定着を図ります。そのために「読書」の選択肢のひとつとして、タブレット端末による電子図書の体験導入を検討し、情報教育との相乗効果を生み出します。



(小学生の図書館訪問)

② 読書手帳を活用し自らの読書活動を実感する取り組み

読冊数と記念品を見直し、自分の読書活動を振り返り成長を感じられる取り組みを検討します。

③ 自ら学ぶ楽しさや知る喜びを感じ、探究心や創造力を高める取り組み

学校図書館教育推進委員会と学校図書館指導委員会との連携を深め、「調べ学習」のための資料の相談に、より迅速丁寧に対応します。

④ 岡谷図書館と学校図書館とのネットワークを強化する取り組み

岡谷図書館で借りた図書を学校図書館等で返却できる制度のさらなる利用促進を図ります。また、教職員からのレファレンスへの対応を強化し、岡谷図書館と学校図書館・児童・生徒・教職員とのネットワークを築きます。

⑤ 1人1台のタブレット端末を用いて電子書籍を活用する取り組み

学校との連携により、岡谷スタンダードカリキュラムの養蚕や製糸業などのふるさと学習や防災教育への電子図書の活用を検討します。



(ふるさと学習の資料)

⑥ PTAの読書推進活動等を支援する取り組み

各学校の状況に応じてPTA図書部などの活動と保護者による読み聞かせの支援に努めます。



(デジとしょ信州)

⑦ 電子書籍の活用により不読率を改善する取り組み

市町村と県が協働運営する「デジとしょ信州」の登録と利用の拡大を図り不読率の改善に努めます。

《 目標指標 》 「岡谷図書館における子どもたち(※注)への貸出冊数」

現状値 2022 (R4) 年度	目標値 2028 (R10) 年度
47,382冊	47,000冊

*注…18歳以下の利用者(カード)の貸出冊数

デジとしょ信州は20歳未満の貸出冊数

§ 施策4 図書館・公民館図書室等における子どもの読書活動の推進

《具体的な事業と取り組み》

① 豊富な児童書を活かし、本に触れる機会の充実を図る取り組み

岡谷図書館では、「おはなしの森」や「読書まつり」など各成長期の段階に応じた行事やイベントを企画し開催します。また、児童書の収蔵割合の高い特徴を生かし、絵本や紙芝居の館内外での活用を進めます。



(花で来館者を温かく迎える)

施設の適切な維持管理に努めながら、子どもたちが館の内外において心地よく本を楽しめる空間をつくります。また、来館者と職員が交流する機会を増やし温かくお迎えする雰囲気を作ります。



(緑のカーテンの種を配布)

③ より多くの親子が岡谷図書館を訪れる取り組み

地域の子育てサークルや育成会などに図書館訪問を年間行事に盛り込むよう呼びかけます。



(子育てサークルの訪問)

④ 世代間の利用交流を呼び掛ける取り組み

高齢者を対象に大活字本や大人の紙芝居、落語、スマートホンの電子図書を紹介する「生き生き図書館講座」を開催し、読書を通じた孫子との世代間交流につなげます。

⑤ 魅力ある「おはなしの森」を再構築する取り組み

職員が担当する「おはなしの森」に季節ごとの山、湖、鉄道などのテーマを設け関連する絵本の読み聞かせのほか、自然に関わる話や鉄道模型など体験型の遊びなどを取り入れます。



(鉄道模型と絵本)

⑥ 子どもの背中を押し続けるブックリストを作る取り組み

子どもの成長期や目的に応じて、読書活動を後押しする図書の最新リストを、保育園・幼稚園の保育士、小中学校の図書館司書などの意見をもとに作成し更新します。また、読書手帳を子どもの成長の記録が残る形に見直します。

⑦ 読書活動バリアフリー化の取り組み

デジタル社会の新たなツールとしての電子図書館を活用し、視覚障がい児の学習支援や日本語支援が必要な子どもたちへの読書機会の提供を検討します。また、多国籍の在住外国人の子どもたちが図書館を利用し母国語と日本語で本に親しむ仕組みを検討します。



(外国人による英語の読み聞かせ)

⑧ 身近な場所での読書環境を整える取り組み

湊、川岸、長地の公民館に設置された図書室では、子どもたちが歩いて利用できる読書の場として一層の活用を図ります。
また、地域における子育てサークルや育成会、子ども食堂など、さまざまな地域での活動を通じて読書活動の推進を図ります。



(湊公民館図書室)

⑨ 中学生の図書館利用促進に向けた取り組み
子ども向けの本では物足りないが、大人向けの本は何を読めば良いかわからない、という中学生のためにYA（ヤングアダルト）コーナーの充実を図ります。

⑩ レファレンス機能を強化する取り組み
図書館業務の見直しにより学校教職員の求めるレファレンスに的確かつ迅速に対応するため司書の研修や先進地視察を行いスキルアップを図り、子どもの学習活動を支援します。

⑪ 読書に関する団体を育成、支援する取り組み
関連団体との連携では、「おはなしだいすきポポの木」の読み聞かせ団体や読書サークルとの協力を継続的に行い、グループ活動の支援を行います。また、子育てサークルや子ども食堂などに出向いて読み聞かせをする等、地域において読書活動を広める取り組みを応援します。



(子ども食堂での読み聞かせ)

《 目標指標 》 岡谷図書館及び公民館図書室が実施する事業やイベントの回数

現状値 2022 (R4) 年度	目標値 2028 (R10) 年度
50 回	60 回

<参考> 岡谷図書館のイベント等

おはなしの森、ちいさなおはなしの森、工作教室、子ども読書まつり、としょかんキッズ、ぬいぐるみお泊り会等

第3章 計画の進行管理

計画の進捗状況の把握や取り組みの評価は、PDCAサイクルにより常に見直しを図ります。
このうち、チェック（評価）においては、目標数値の達成度だけでなく、事業内容や行事等に参加した子どもや保護者の声を聞き、目に見えない成果や表面に数値では現れない状況を岡谷市子ども読書活動推進会議に示し、評価を議論します。



《PDCA サイクル》の事例「おはなしの森」

【第1サイクル】

- 《PLAN：計画》 毎週土曜日の午前中約 30 分の読み聞かせ等を岡谷図書館2階会議室で開催する。
- 《DO：実行》 ボランティア団体の協力を得て、館内放送で呼びかけるとともに来館中の親子に声をかけ参加を促す。
- 《CHECK：評価》 天候等により参加者が少ない日もあり周知が足りない。また、集まる年齢層により読み聞かせの題材が難しい。
- 《ACTION：改善》 広報や新聞での周知を継続して行い、毎回ご日程と出演団体を表示したポスターに手書きのイラストを描き玄関掲示板に貼り周知を図った。また、出演団体と協議し、子どもの年齢に合わせて題材を幅広く用意した。



(手作りの案内)

【第2サイクル】

- 《PLAN：計画》 参加人数は徐々に増える傾向にあるが、まだ周知が足りない。会場を児童コーナーで開催する。
- 《DO：実行》 庭を見渡す階段状の席から絵本も見やすく、読み聞かせの様子が来館者の目に入る。
- 《CHECK：評価》 来館者へのPRはできたが、静かな図書館内で読み聞かせの声や歓声が響いた。
- 《ACTION：改善》 「おはなしの森」開催中の案内を掲示し、子ども読書推進への理解を求め、来館者にも子どもたちの元気な笑顔や声を見て聞いてもらう。



(児童コーナー)

【第3サイクル】

- 《PLAN：計画》 限られた時間内で内容が絵本の読み聞かせに偏りがちになり、見るだけでなく手足を動かすような内容を盛り込む。
- 《DO：実行》 手遊びやエプロンシアターなどを組み入れ体験型とする。

- 《CHECK：評価》 からだを動かすことで子どもたちの緊張もほぐれ絵本への集中力も高まった。
- 《ACTION：改善》 保護者が家庭でもできるような簡単な手遊びなどを紹介しても良い。また、お話の森が楽しい場所というイメージを定着させる。



(からだ全体で手遊び)

ご清聴ありがとうございました。

ニコニコボックス

今井康善・牛山幸一・梅垣和彦・太田博久・大滝祐吉・大橋正明・小口 功・小口 隆・小口裕司・尾関秀雄・笠原新太郎・片倉克昭・上條英雄・北澤洋之介・小林大介・小宮山英利・佐伯克己・薩摩 建・瀬戸雅三・高木克彦・中嶋孝一・中村文明・西澤賢・濱 毅・林広一郎・林 裕彦・平沢清文・宮坂 伸・宮澤由己・矢島雄一・山岡俊幸・山岸邦太郎・山崎典夫

市立岡谷図書館館長 小坂英之様、本日は卓話よろしくお願ひいたします。

出席報告

会員数 51名、出席者 38名、出席率 74.0%

Rotary



2023-2024 年度 RIテーマ
世界に希望を生み出そう



世界に希望を生み出そう